

講師

古賀 玉緒

■ 学歴

1. 2009年 久留米大学修士課程 修了

■ 学位

1. 2009年 修士（医科学）

■ 研究分野

1. 母性看護学
2. 助産学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 周産期
2. 更年期
3. 教育

■ 研究課題

1. 周産期における女性の母親役割適応への援助について考察する。
2. 更年期の女性の健康問題を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。
3. 看護・助産学生の教育向上にむけた教授方法を考察する。

■ 担当授業科目

1. 助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）（前期）必須
2. 助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児期）（前期）必須
3. 助産診断・ケア学Ⅴ（周産期のハイリスク）（前期）必須
4. 初産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）（通年）必須
5. 助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）（通年）必須
6. ウイメンズヘルスケア（前期）必須
7. 人間関係とコミュニケーション（前期）選択
8. 助産学基礎実習（前期）必須
9. 助産学実習Ⅰ（正常）（通年）必須
10. 助産学実習Ⅱ（正常逸脱）（後期）必須
11. 母性看護方法論（後期）必須
12. 母性看護学演習（前期）必須
13. 母性看護学実習（通年）必須
14. ウイメンズヘルス（前期）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p>授業科目名【助産診断ケア学Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】</p> <p>助産別科の学生を対象に産褥期・新生児期に関する講義・演習を行った。</p> <p>実戦経験が少ない学生が対象をイメージし、対象の観察ポイントを見出し、適切な看護ケアについて思考が深められることを意図して、事前学習を実施し、具体的な支援についてグループワークやディスカッションを通して考えることのできる機会を設けた。また、教員が助産技術の動画を作成し、演習に向けたイメージ作り、準備に活用できるよう工夫した。また、実践に活用できることを意図し模擬患者へのロールプレイの時間を設け学生の実践力向上を目指した。</p> <p>助産診断ケア学Ⅴでは主担当と検討し、ハイリスクに関する内容は臨床において対応する機会が多い疾患について解説し実習や国家試験対策につながることを意識した。</p>
2.	<p>授業科目名【助産診断ケア学Ⅵ・Ⅶ・人間関係とコミュニケーション】</p> <p>助産診断ケア学Ⅵでは、健康教育の概要についての解説、産褥期・思春期に関する健康教育実施に必要な指導方法を段階的および系統的に理解し実践に活用できることを意図して講義内容を組み立て実施した。演習では他教員も加え少人数を受け持ち、個別的な対応を行った。その際、教員間において教授内容を統一し共通理解を得たうえで指導にのぞめるよう準備した。学内での学習は臨地実習における対象者へ向けた直接指導や高校生を対象とした思春期教育へつながることもあり、実践を意図した内容を工夫した。助産診断ケア学Ⅶでは担当する学生個々の進捗状況を確認しながら理解につながることを意識して対応した。</p> <p>人間関係とコミュニケーションでは主担当とともにロールプレイを実施し、学生にとって効果的な場面となるよう計画した。</p>
3.	<p>授業科目名【ウイメンズヘルスケア】</p> <p>講義は主に解説が中心であるが、教科書のほか国の施策や世界の動向、関係する NGO 団体の活動を紹介することで、ウイメンズヘルスに関する助産師としての自身の支援の方向性や知見を広げられるよう意識した。</p>
4.	<p>授業科目名【助産学実習（基礎・Ⅰ・Ⅱ）】</p> <p>臨地実習では適宜、施設担当者と連絡をとり施設の受け入れ条件の確認と厳守し臨んだ。時間や実習内容に制限はあったものの集中して学ぶことができた。新型コロナウイルス感染拡大の影響による施設からの実習制限もあったが、学内実習にふりかえて指導に臨んだ。学内でも実習目標を達成できるよう実習内容を検討し、臨地実習の経験状況をふまえて指導計画を作成し対応した。</p>
5.	<p>授業科目名【母性看護方法論・母性看護学演習・ウイメンズヘルス】</p> <p>母性看護方法論では、看護学科2年生を対象に、周産期における女性（胎児・新生児を含む）の生理的变化の理解およびウエルネス看護診断・看護過程の理解を目的に、映像を活用し学生の知識の定着や思考力の向上に努めた。</p> <p>看護過程演習では、看護学科3年生を対象に臨床実習を見据え、得られた知識を実践で活用できるよう個人ワークや担当学生との質疑応答の時間を確保した。個々の進捗状況をふまえて効果的な指導になるよう努めた。また、事前に学習成果を提出させ教員は予め内容を確認したうえで指導のポイントをふまえて講義に臨んだ。技術演習では優先度の高い基本的な母性看護に関する技術を中心</p>

	<p>に本学の感染予防ガイドラインに沿って実施した。</p> <p>ウイメンズヘルスでは、女性の健康に関するなかでも、更年期老年期の女性の健康について解説を行った。グループディスカッションの時間を設け、学生の考察が深まるよう取り組んだ。</p>
6.	<p>授業科目名【母性看護学実習】</p> <p>新型コロナウイルス感染の影響により学生の実習形態は臨地・学内と学生間での相違がみられた。そのため、全ての学生がそれぞれの実習形態のなかで、より効果的な実習を経験することができ、かつ実習目標を達成できるよう実習内容を検討しながら教員間でも検討しながら実習方法を工夫した。</p> <p>臨地における学生の指導については、指導者とも定期的に情報交換を行い学生の進捗状況をふまえて効果的な指導を心がけた。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2007年4月～現在に至る	日本母性衛生学会会員	構成員
2.	2008年4月～現在に至る	日本看護研究学会会員	
3.	2011年9月～現在に至る	日本助産学会会員	
4.	2014年5月～現在に至る	日本看護科学学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2013年～現在に至る	助産別科学生アドバイザー	
2.	2016年～現在に至る	助産別科実習コーディネーター	
3.	2016年～現在に至る	入学試験会議	構成員
4.	2016年～現在に至る	学生募集委員会	構成員
5.	2017年～現在に至る	保健福祉学研究所運営委員会	構成員
6.	2022年～現在に至る	オープンキャンパスWG	構成員
7.	2022年～現在に至る	看護学科種まきプロジェクト分科会（実習）	分科会メンバー